

緑のしるべ

～冬号～

令和7年2月

茨城県県南農林事務所
稲敷地域農業改良普及センター
稲敷市江戸崎甲541 稲敷合同庁舎内
TEL 029(892)2934 HP
FAX 029(892)6684
Mail inanofu@pref.ibaraki.lg.jp



令和6年度 第1回稲敷地域農業簿記講座を開催



稲敷地域農業改良普及センターでは、毎年11月から翌年2月にかけて計4回、農業簿記ソフト「ソリマチ農業簿記12」を活用して、記帳作業を行う農業簿記講座を開催しています。

今年度は、11月13日に第1回講座を開催し、8名の農業者が参加しました。はじめに普及センター職員から「農業簿記と分析の基礎」として、決算書の構成や見方、経営分析方法について講義をし、続いて一般社団法人茨城県農業会議の小泉勝浩氏から「ソリマチ農業簿記12を用いた記帳から申告までの流れ」について、講義と演習をしていただきました。講義では、仕訳の基礎学習や農業簿記ソフトの活用、資産の増減や費用の発生といった取引における仕訳方法について説明がありました。演習では、実際に簿記ソフトへ取引情報を入力し、記帳から決算書作成までの流れを学習しました。今回、初めて参加される方もいましたが、講義と演習を通じて、農業簿記への理解を深めることができました。

普及センターでは、今後も様々な講座を開催し、農業者の知識・技術の習得を支援していきます。



令和6年産米を振り返る

令和6年は、水稻の栽培期間を通じて、平年より気温が高い傾向が続きました。このため平年より生育が前進し、出穂期や成熟期が早まるとともに、登熟期間は短くなりました。高温の影響で稈長も長くなり、出穂後早い時期から倒伏した圃場も多くみられました。

収量調査の結果から、㎡あたり粗数は平年より多いものの、登熟歩合がやや低い傾向があり、「あきたこまち」で平年並～やや多い、「コシヒカリ」でやや少ない～平年並の収量となりました。玄米品質は昨年に引き続き白未熟粒の発生が多くみられました。また、カメムシ類（特にイネカメムシ）の発生が多く、出穂の早い圃場や遅い圃場が集中して加害された結果、不稔粒が多発し、収量が大幅に減少する事例も散見されました。

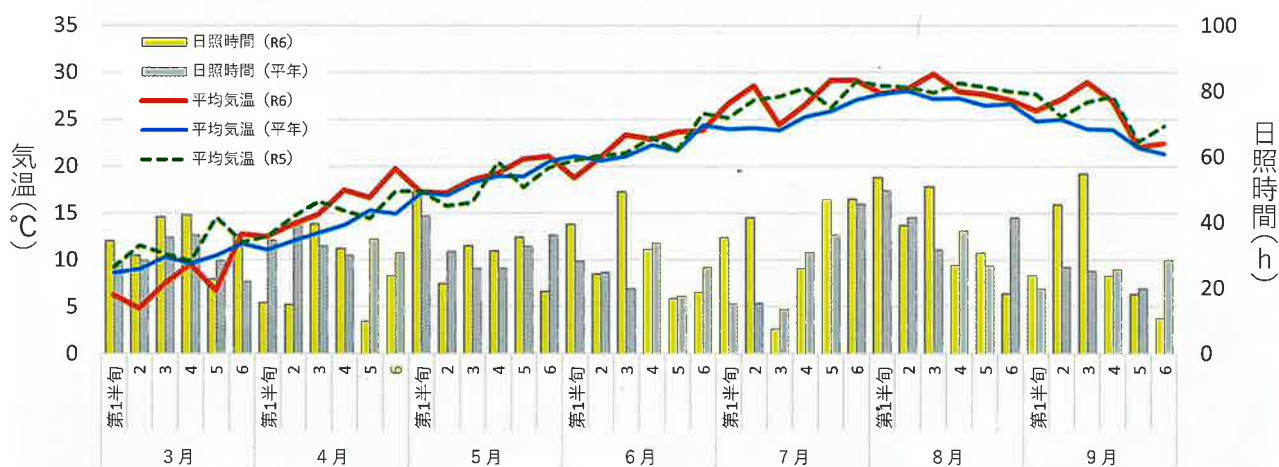


表 令和6年産米の生育及び収量・品質調査結果

品種	場所	移植期 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	一穂粗数 粗数(百粒)	㎡あたり 粗数(百粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	坪刈収量 (kg/10a)	整粒歩合 (%)
あきた こまち	稲敷市	R6 4/28	7/11	8/21	94	20.6	415	90	373	75	21.0	585	41.1
	下須田	平年 4/26	7/14	8/22	89	18.7	423	84	356	82	21.0	602	59.4
	稲敷市	R6 4/25	7/9	8/21	85	19.6	376	67	253	87	22.2	614	29.6
コシ ヒカリ	南太田	平年 4/26	7/12	8/21	87	17.8	416	74	308	80	21.6	558	57.8
	稲敷市	R6 5/2	7/23	8/27	95	19.5	459	81	372	57	22.7	522	27.1
	浮島	平年 4/30	7/27	9/4	91	19.2	401	78	314	74	21.0	543	53.0
	美浦村	R6 5/17	8/3	9/8	97	20.3	403	96	385	76	21.2	539	34.5
	茂呂	平年 5/7	7/31	9/5	94	18.8	403	83	333	76	21.1	491	54.7
	龍ヶ崎	R6 5/20	8/3	9/8	113	19.8	469	81	380	56	21.3	438	58.5
	塗戸町	平年 5/20	8/6	9/16	100	19.4	402	74	298	63	21.8	512	59.2

注1) 平年はR1～R5の5ヶ年平均

注2) 収量・千粒重は1.85mm篩目調製、15%水分換算重

注3) 整粒歩合は穀粒判別器による

次年度に向けた対策

今後も夏季は高温傾向が予想されます。**水稻の高温障害を軽減させるには、稲体を登熟後期まで健全に保つことが重要です。**作付け前に、以下の対策を確認しておきましょう。

【土壌管理】

作土深は15cm以上とし、適度な透水性を確保して、根の活力を登熟後期まで維持しましょう。**堆肥投入による地力窒素向上やケイ酸肥料の投入**は、登熟期の光合成能力の維持に繋がります。一発肥料を使用する場合、散布時期は移植2週間前～移植直前とします。

【病害虫防除】

イネカメムシの防除適期は出穂期です。早めの散布を心掛け、発生量が多い場合は7～10日後に追加防除を行いましょう。

詳しくは農業いばらき
特集記事へ



「水稻高温障害対策としての
水田の土壌管理」



「近年増加中!
イネカメムシとは?」

ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ) による被害と対策

近年、当普及センター管内でジャンボタニシ (スクミリンゴガイ) の発生が増加しています。ジャンボタニシの生態を把握し、発生密度低下に向けた取組みで水稻やれんこんの被害を防ぎましょう。

ジャンボタニシの生態、作物への被害

【卵】

産卵直後の卵は濃いピンク色でよく目立ちます(図1)。ふ化直前は色が抜けます(図2)。卵は水中ではふ化できませんが、ふ化直前の色が抜けた卵は水中でもふ化できます。ふ化までの期間は、25℃で約2週間かかります。



図1 産卵直後



図2 ふ化直前

【生育・繁殖】

ふ化した稚貝は約2か月で成貝(殻高2～3cm程度)となり、産卵を始めます(図3)。産卵期間は4～10月で、1個体あたり年20～30回、年間3,000個以上産卵します。



図3 サイズ別のジャンボタニシ

【食性、作物への被害】



図4 ジャンボタニシの食害(左:水稻 右:レンコン)

雑食性ですが、特に柔らかい植物を好むため、稲(田植え直後の稚苗～4葉期頃まで)やれんこん(幼葉)などを食害し(図4)、欠株や生育遅延が生じます。

【越冬】

寒さに弱く、14℃以下で活動を停止し、休眠します。0℃では20～25日、-3℃では3日で死に至ります。乾燥には強く、水が無くても半年以上は生存可能です。越冬場所は、ほ場や用排水路の土の中で、地表から深さ6cm以内の場所で越冬していることが多いようです。

発生密度を低下させるための対策

【共通】

- ・登録農薬を適切に使用してください。
- ・**取水口にネットを設置する**ことで、ジャンボタニシの侵入を防止します(図5)。
- ・濃いピンク色の卵は水中に削り落とします。色が抜けた卵は、除去または押しつぶします。
- ※毒があるため素手では触らない。



図5 取水口へのネット設置例

【水稻】

厳寒期にロータリー耕うんでジャンボタニシを破碎するとともに、寒風にさらすことで凍死させます。ロータリーの回転を速く、トラクター速度も遅くすることで効果が高まります。

【れんこん】

厳寒期の浅水管理によって、地温を低下させ、越冬個体数を低下させます。



関東ブロック青少年(4H)クラブプロジェクト実績発表会で 根本祐輔氏が優秀賞受賞(全国大会出場決定!)

農業後継者クラブ「のうけん」に所属する根本祐輔氏のプロジェクト活動が、10月に開催された関東ブロック農村青少年(4H)クラブプロジェクト実績発表会で優秀賞を受賞しました。根本氏は稲敷市西代で水稻作に取り組む若手農業者で、現在就農7年目です。プロジェクト活動では、飼料用米栽培にて、省力・低コストで高収量を得るため、基肥を比較的安価な鶏ふん肥料に代替する試験を行いました。なお、根本氏は3月に開催される「第63回全国青年農業者会議」に出場することになりました。全国大会出場おめでとうございます。



表彰式(前列左から2番目が根本氏)



(農)東町自然有機農法が米コンテスト【有機米部門】で優秀賞受賞!



大井川知事との受賞記念撮影

11月26日に水戸京成ホテルにて、茨城のおいしさを極めたお米を選ぶ「第4回いばらき米の極み頂上コンテスト」が開催されました。本コンテストは、今年度より『有機米部門』が新設され、1次及び2次審査を通過した4点が最終審査に進出しました。水戸京成ホテル総料理長や五ツ星お米マイスター等による食味審査の結果、稲敷市の農事組合法人東町自然有機農法(代表理事 大野満雄氏)が有機米部門で第2位のビオ・アルエット賞を受賞しました。おめでとうございます。

農業学園「先進経営農家視察研修講座」を開催しました

9月18日、稲敷市浮島でレンコン大規模経営を行う「株式会社れんこん三兄弟」の取り組みをテーマに農業学園を開催し、24名が参加しました。当日は法人の出荷調整場を見学した後、会場を桜川公民館に移し、代表取締役の宮本貴夫氏から法人化するまでの経緯、規模拡大や販路開拓など熱意ある説明をいただきました。参加者からは「経営理念や目標を立てることの重要性について学んだ」、「自身の経営について考え、目標に向けて実践していきたい」など今後に向けて前向きな意見をいただきました。



出荷調整場見学

稲敷地域青年農業士会が「イノシシ被害対策講座」を開催しました



10月29日に農研機構の堂山宗一郎主任研究員を講師に招き、「イノシシ被害対策講座」を開催し、青年農業士8名が参加しました。講座では、イノシシの被害状況や生態、対策について説明を受けました。柵や罠の効果を上げるためには、生態の理解が必要な点などを具体的な事例を交えながら講演していただきました。出席者からは、「被害が本格化する前に話が聞けて良かった」、「イノシシに対する疑問が解決できた」等の感想があり、イノシシに対する理解を改めて深めている様子が見られました。